

Vine

「地域の中核、世界の人材」
UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学広報
ヴァイン

2016
vol.29
July

[特集] 頑張る女性は美しい
いざ!「わたし」が活躍できる大学!

[特集] ちょっと聞いてほしくて特集してみました
大学職員のシゴト、知っていますか。



【人物発掘】

矢野浩司 教授 工学部電気電子工学科

【ぴっくあっぷレッスン】

社会環境医学

【クローズアップぴ〜ぶる】

渡邊勇磨さん

教育人間科学部学校教育課程生活社会教育コース

【サークル紹介】

男子バスケットボール部

Yamanashi Life Support (YLS)

頑張る女性は美しい いざ!「わたし」が活躍できる大学!

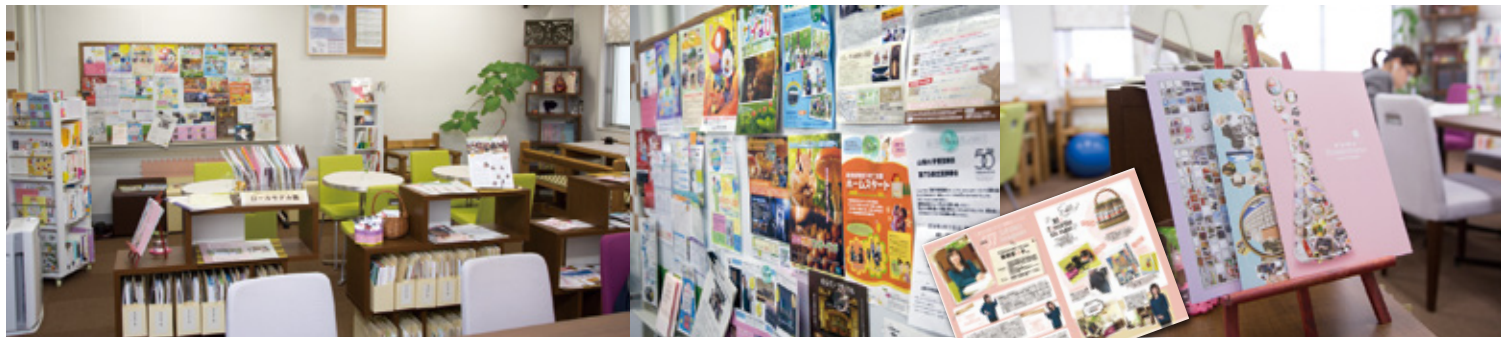
山梨大学は、女子学生や女性研究者をはじめとする全ての学生・教職員が、「個性」と「能力」を十分に発揮し、誰もが学びやすく、働きやすい環境をつくるため、島田眞路学長を先頭に様々な取り組みを展開しています。

その推進役となる「男女共同参画推進室」の活動をご紹介します、

平成28年4月に、山梨大学初の女性役員として就任した塚本理事・八巻監事のインタビューをお届けします!



このはなひめ
Coの花姫
女性研究者への支援活動
マスコットキャラクター



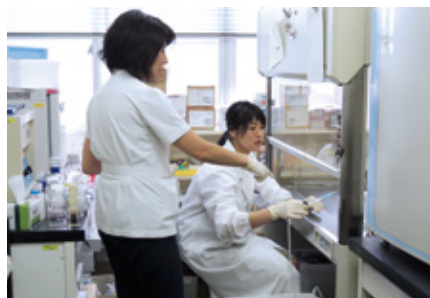
誰もが笑顔になれる環境を整える 男女共同参画推進室

ロールモデル集
「ナンダイResearchers」Vol.1~3
研究者の仕事ややりがいなどを紹介しています

大学には、様々な状況の人がいます。高校から進学した学生はもちろん、社会人を経験した学生、海外からの留学生、県内外から通勤する教職員など、個人の状況は一様ではありません。

そこで山梨大学では、男女共同参画推進室を中心に、充実したキャンパスライフが送れる環境作りや、仕事に取り組める体制作りをしています。情報交換の場として、学生や教職員が自由に交流できる「交流スペース」を設置しているほか、ランチ会を開催したり、スキルを磨くための「英語論文の書き方セミナー」を開催したりするなど、幅広い活動を行っています。

特に女性研究者に対しては、育児や介護をしても研究活動が続けられるように「キャリアアシスタント」という研究サポーターによる研究活動支援を行っています。



ライフイベント中の女性研究者の研究をサポートする
キャリアアシスタント(学生の研究サポーター)

キャリアアシスタントは、女性研究者をサポートすると同時に、自らの研究スキルの向上や進路を模索することができます。さらに、研究と育児などを両立する研究者を身近に感じることで、将来の自身の「ワーク・ライフ・バランス」について考えることができます。このキャリアアシスタントを経験した学生の

多くが大学院へ進学しています。

また、男女共同参画推進室では、理系進学を希望する県内の女子中高生に対する応援活動を毎年行っています。主に出張講座として、大学生や研究者とともに大学生活や研究、進路の話ができる機会を提供しています。

男女共同参画推進室の活動

キャリアアシスタント制度	研究者の復帰後の研究サポート	育児・介護の支援	交流スペース	男女共同参画の意識醸成
ライフイベント中の研究者に対し、研究活動を支援するためのキャリアアシスタント(CA)を配置します。	産休・育休から復職した研究者に対し、学会参加費や論文投稿費等の費用を助成します。	本学に所属する教職員および学生に対し、育児や介護に関する情報を提供します。	B1号館214号室は、学内の誰もが利用できる交流スペースとして開放しています。	講演会やセミナーを通じて、教職員および学生の男女共同参画の意識醸成を図ります。



風間ふたば 男女共同参画推進室長

(学長補佐[男女共同参画担当]/生命環境学部 環境科学科 教授)

現在、女性の活躍が後押しされるようになった背景には、女性のキャリアアップや仕事の継続などが、男性に比べて難しいことが理由の一つに挙げられます。これは、育児や介護などのライフイベントを女性は男性よりも担いやすいため、キャリアを中断する傾向にあるからです。

好きな仕事に就いたのに辞めなくてはならない、活躍が認められないのはとても残念なことです。「誰もが笑顔になれる大学を創る」、男女共同参画推進室はこれを使命として、今後も活動を行っていきます。学生のみなさんの楽しいキャンパスライフにも貢献できるよう、いつでもご意見をお聞かせください。



学生や教職員が自由に参加するランチ会でのようす



情報発信

URL: <http://www.conohana.yamanashi.ac.jp/>

ホームページやロールモデル集、ニュースレターなどで様々な情報を発信しています。

ホームページでは、セミナーのご案内や日々の活動レポート、キャリアアシスタントの募集、所蔵図書など様々な情報を提供しています。また、現役大学生やOB・OG、留学生、教職員のインタビューも掲載しています。ぜひご覧ください。



塚本レイ子 理事 **Interview** W 八巻佐知子 監事

株式会社ルミエール取締役

弁護士(八巻法律事務所)

山梨大学は、落ち着いた広いキャンパスの中で、学生が生き生きとしている大変素晴らしい大学です。山梨大学には、宝物になりうるものがたくさん潜在していると感じています。たとえば、素晴らしい香りの榊檀(せんだん)の大木や、面白いところだとコルクの木等、散歩するだけで樹木が様々な生命の息吹をPRしています。子供からシニア層まで、多くの方々が散歩できる大学でありたいと思います。グローバル化対応の一つとして、各国の文化を理解するために、留学生ともしっかりと活発に交流できる環境作りも目指してまいります。

この度、理事に任命していただき大変光栄に思っておりますし、また、責任も感じております。私ができること、つまり外部からの目線で感じたことを提言していきたいと思っております。



Reiko Tsukamoto 学生の皆さんへ

女子学生の皆様には特に、一人の「人間」として経済的に自立し、社会に貢献できる女性となってほしい。自分の意見を持ちながらも、相手のニーズを先読みして「対応」や「気配り」できる女性になっていただきたい。めげずにいつも好奇心を持って生活するのが私流です。私と何世代も違う若い女子学生の皆様と一緒に話し合う雑談の場を持てればとも考えております。

弁護士という仕事は、どのようなイメージでしょうか?ドラマのように華やかな弁護士もいますが、私は町医者イメージで、身近な困った方に寄り添っています。子どもや若者が未来に希望を持てる社会であってほしいという思いがあり、子どもの権利のための活動に力を入れていますので、監事の仕事を通じて学生さんとも話したいです。

大学の業務としては、研究を深める一方で、医療・教育・人材育成というサービスの質の向上も求められていると思います。私自身親として、子どもを預ける学校を選ぶという視点を持っていますので、ユーザーの声や理念が、実際のサービスにどのように反映されているのに関心があります。女性活躍というお題目が一人歩きしないように、女性も男性も能力を発揮できる職場環境であるために何をしていくか模索していきます。



学生の皆さんへ **Sachiko Yamaki**

私の大学生生活は、司法試験のための受験生活でしたので、もっとこれをやっておけばよかったということがたくさんあります。特に、自分の専門とは違う分野のことを勉強したり、専門家や先生・他学部生と交流したりすることは、仕事を始めるとなかなかできません。時間を全部自分のために使える間に、幅の広い知識・経験を得て欲しいと思います。

ちょっと聞いてほしくて特集してみました

大学職員のシゴト、 知っていますか。

山梨大学には教員や研究者のほかに
500人以上の事務・技術スタッフがあります。

「えっ、そんなにいるの?」

意外に大勢のスタッフが山梨大学を支えています。

「そんなにいて、大学職員って普段何してるの?」

今回はそんな疑問にお答えすべく、

事務スタッフを中心に大学職員の仕事を特集します。



甲府キャンパス総合研究棟(Y号館)2階の学生窓口

大学職員でイメージするのは、やはり「学生に接する仕事」ではないでしょうか？
まずは、入学から卒業まで、様々な場面で学生と関わるセクションをご紹介します！

甲府キャンパス

●教務課

教務課は、カリキュラムの作成、授業の履修・成績管理、年間行事予定の作成、学生の個人情報の管理や変更手続き、休学・退学の手続き、学生証などの証明書発行など多岐にわたります。教員と連携して、カリキュラム内容の検討や履修指導のサポートもしています。

また、大学生への支援だけでなく、7月～8月に開講する「山梨県下高校生への公開授業」、県内外の高校へ教員が出向く出前講義、公開講座の運営など、高校生や地域の方々が山梨大学に興味を持ってもらえるよう、様々なイベントも行っています。

●学生支援課

学生支援課は、主に経済的支援、学生相談、課外(サークル)活動支援などを行っています。

たとえば、大学生生活は何かとお金がかかりますが、経済的支援が必要な学ぶ意欲のある学生が勉学に打ち込めるよう、奨学金や授業料・入学金免除などの制度を用意しています。大学生活や日常生活での悩みごとや困りごとを相談できる窓口も複数設置しています。

学生支援課は、名前のとおり色々な場面で学生をサポートしています。より充実した学生生活を送れるよう、学生支援課を積極的に活用してください。

医学部キャンパス

●学務課

学務課は、教務関係、学生支援関係、留学生関係など医学部キャンパスの学生窓口に係る仕事を一手に担っており、医学部の学生には多くの面で関わりがあります。学生にとって頼れる存在であるよう、職員一丸となってサポートしています。

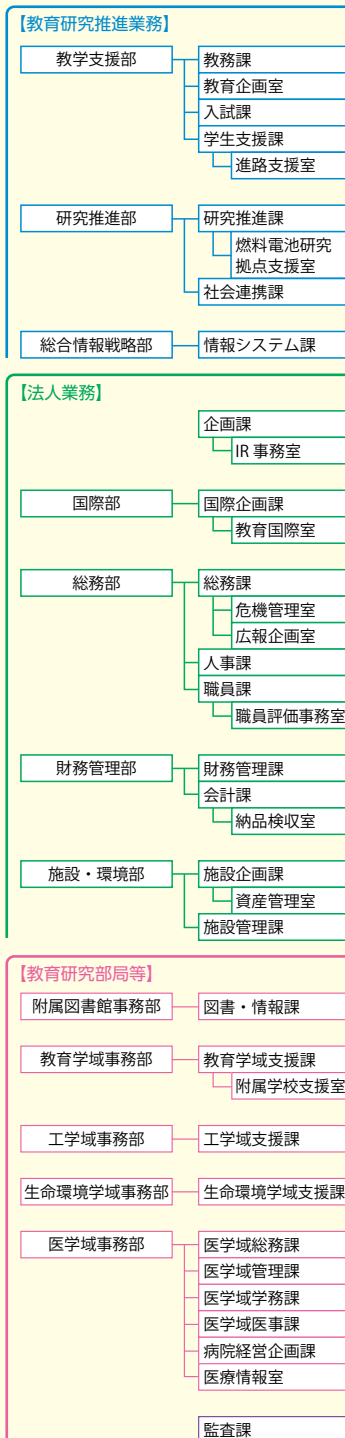
毎年8月には留学生や教職員、地域団体が各国の料理を振る舞う「たべもの異文化交流会」も主催しており、留学生と地域の方々が食を通して異文化交流を行なっています。



医学部キャンパス管理棟1階の学生窓口

大学職員のほとんどは、学生に接する機会はめったにありません。 なじみがないかもしれませんが、どれも山梨大学には必要不可欠な仕事です。

事務組織図



●入試課

入試課の仕事はズバリ!入試そのもの。でも、皆さんの見えなところで、募集要項の作成から入学手続きまで、受験生をお手伝いしてなんです。オープンキャンパスや進学相談会で、高校生や高校の先生と関わることもあります。



●進路支援室

キャリアセンターと協力し、学生の就職・進学活動支援、インターシップ、キャリア教育などを行っています。進路調査も行っていて、先輩がどこに進んだかをまとめた冊子も作成しています。将来を決める参考にしてください!



●社会連携課

私たちは、共同研究・受託研究などの管理や、特許などの知的財産に関する業務を行っています。先生方の研究成果を企業に紹介し、産学連携への関心を深めてもらう事業などにも取り組んでいます。



●情報システム課

情報システム課の主な業務は、学内のサーバや端末のメンテナンスです。入学時に一人ひとりに配布する学生アカウントの設定もしています。

●教育国際室

外国人留学生の受入と生活指導、海外留学派遣の手続きなどを行っています。また、国際交流センターと協力して、学内外との交流イベントなども企画・開催しています。海外や留学に興味のある方は、是非お越しください。



●広報企画室

今お読みのVineを発行しているのはここです!大学案内の制作やホームページの更新などを通じて、山梨大学のアピール活動を行っています。



●総務課

総務課は、広く大学全体に関する業務を行っています。学生のみさんに関係することと言えば、入学式や卒業式の運営ですね。学長や理事の秘書も務めています。

●人事課

教職員の採用、昇任、異動など任用に関する業務、給与計算や各種手当の手続きなど給与に関する業務を行っています。大学職員の採用活動も人事課が担当です。合同企業説明会で説明しているのは私たちですよ!



●財務管理課

大学運営のための概算要求、大学全体の予算の編成・配分・決算に関する業務を行っています。大村智博士に続く人材育成等を目的とした「山梨大学大村智記念基金」事務局も担当しています。



●会計課

会計課の業務は大きく分けて2つです。業者との物品購入などの契約に関することと、出納(お金の出し入れ)に関することです。学生とは授業料の納入で直接関わっています。



●資産管理室

資産管理室では、土地や車などの大学が所有する資産を管理しています。甲府キャンパスと医学部キャンパスをつなぐシャトルバスの運用も行っています。

●図書・情報課

附属図書館に関わる業務を行っています。図書館にある図書を貸し出すだけでなく、他大学から資料を借り受けたり、コピーの取り寄せも行っています。授業やレポート・卒論作成時の強い味方です。



●各学域支援課

他のセクションは大学全体に関係しますが、学域支援課ではそれぞれの学域(学部)に密着して学生や先生をサポートすることができます。担当学部の学生や先生と交流する機会が多く、顔や名前を覚えたり、逆に覚えてもらえたりするのが嬉しいです。



職員クラブ
バドミントン部

たまには思い切りカラダを動かさないと!

山梨大学にはいくつか職員クラブがあります。その一つ「バドミントン部」は毎日昼休みに体育館で活動しています。職員同士だけでなく、役員や先生、退職されたOB、学生と一緒にゲームをすることも。初心者から経験者まで揃っているので、レベルに合わせた楽しみ方ができます。まずは気軽に遊びに来てください!

大学職員特集、いかがでしたでしょうか。これを機に学生や地域の皆様に身近に感じていただけたら幸いです。また、「山梨大学で働きたい!」という方のために、ホームページに採用情報を掲載しています。職員採用試験の情報やパート職員の募集など随時更新しています。どうぞご覧ください。

山梨大学ホームページ
「採用情報」



人物 発掘



矢野浩司教授

大学院総合研究部 工学域 電気電子情報工学系

高校時代、ドキュメンタリー番組で魅せられた半導体デバイス。以来30年近くにわたって、パワーデバイスの開発に取り組んできた矢野浩司教授。シリコンに代わる半導体材料として注目される炭化ケイ素(SiC)を使った、高性能、高信頼性のトランジスタは、電力損失を極力抑える。新たなパワーデバイスとして、業界からも注目されています。

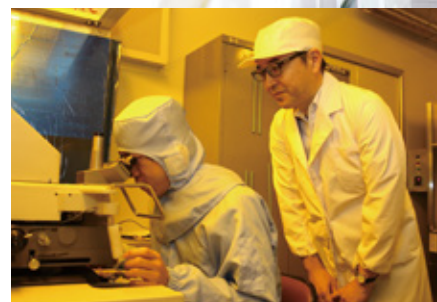
ドキュメンタリー番組に衝撃を受け、半導体の開発を志した高校時代

私は今、工学分野の研究者となっていますが、こうした道を選ぶ直接のきっかけは、高校時代に偶然目にしたドキュメンタリー番組でした。東北大学の西澤潤一教授(のちの東北大学総長)の研究室が、半導体の開発に取り組む様子を追いかけた番組だったのですが、それが強烈な印象となり、半導体デバイス、なかでもトランジスタの開発を志すようになりました。

大学は地元の静岡大学工学部に進みました。4年次の研究室配属でトランジスタをやりたいと希望を出したところ、電子工学研究所に配属になりました。実は、配属された研究室は結晶成長をテーマとしていたのですが、私はどうしてもトランジスタをやりたいということで強く希望し、認めていただいたという経緯があります。そこで博士課程まで終え、修了後に山梨大学工学部に助手として採用されて以来、ずっと山梨で過ごしています。

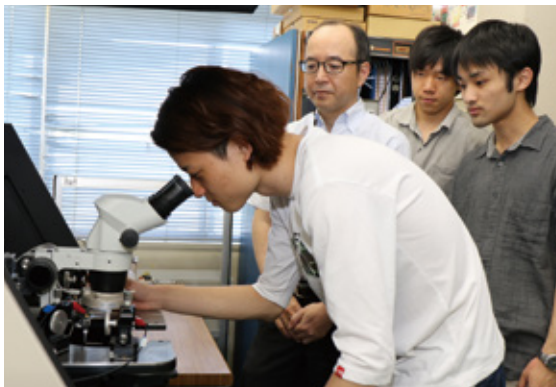
電力損失を従来の12分の1に低減するパワー半導体デバイスの共同開発に成功

私の研究対象は半導体パワーデバイスと言って、電力の変換に必ず必要になる半導体デバイスです。例えば、パソコンを使うとき、電源はコンセントからとりますよね。ですが、実は、家庭用コンセントからとれる電力は交流で、パソコンを駆動するために必要なのは直流なので、コンセントからとった電力を変換する必要があるわけです。そして、そうした場面で使われているのが、半導体パワーデバイスです。他にも、ハイブリッドカーや産業用ロボット、エアコンといっ



1ミクロンの加工が可能な製造装置を用い半導体パワーデバイスを試作します。





試作したトランジスタの特性を測定する風景。期待通りの性能が出るか緊張の一瞬です。



コンピュータを用い半導体設計開発を行い、新しい半導体デバイスの提案を目指します。

たモーターで動く機器でも、電力の変換が行われていますし、さらに、最近実用化が進んでいる太陽光発電や燃料電池といった再生可能なエネルギーについても、発電から使用するまでの過程で変換が必要になります。あまり表に出てきませんが、スマートフォンや家電機器など、身近でも多く使用されているデバイスです。

ところで、スマートフォンの電源が熱くなって驚いたことはありませんか？あれは、半導体が電力を交流から直流に変換する際に生じるロス（熱エネルギー）として放出している、すなわち捨てているという現象です。危険性はありませんが、非常にもったいない。実は、スマホに限らず、電力を変換する際には常に一定のロスが出てしまいます。このロスを減らすことで、省エネが可能になります。私が研究しているのはまさにそこで、いかにロスの少ない半導体を作るかということを追及しています。

そうしたなか、2004年からつくば市にある産業技術総合研究所と共同研究を進めてきたのが、炭化ケイ素（SiC）を用いた静電誘導トランジスタです。

現在、一般的な半導体として使用されているのはシリコンですが、この炭化ケイ素は、シリコンと炭素の化合物であり、シリコンとダイヤモンドの中間的な性能を持つ、次世代の半導体とも呼ばれ注目されている素材です。私たちは、すでに、電力損失を、従来品の12分の1に抑えるという性能を持ったトランジスタの開発に成功しており、

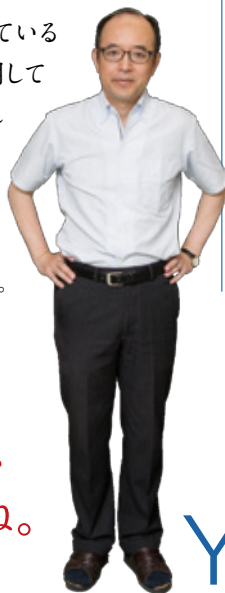
現在は商品化に向けてサンプルを作成している段階です。

**ますます重要になる
コミュニケーション能力。
国内外の研究者とのやり取りが、
新たな発見や開発につながることも**

日々の研究活動にはいろいろな苦労があるわけですが、そうした中で新たな発見をして、それをもとにして従来よりもさらに高い性能が出たり、新しい機能が構築できたりしたときには、大きな喜びとこの上ないおもしろさを感じます。

一方で、新しい研究の種を見つけるというのはなかなか大変なことで、試行錯誤を繰り返し、いろいろな試みを行う中である日突然偶然のように見つかることもあるのですが、その偶然を作り出すこと、見出すこともまた、研究者の能力の一つだと思っています。

さらに、技術が多様化するなか、国内外の他分野の研究者とコミュニケーションをとることもますます重要になっています。インターネットの発達により、世界中どこにいる研究者ともリアルタイムでコミュニケーションが取れる環境が整っているのですから、それを活用してコミュニケーションをとれるかどうかということは、その後の研究がどうなっていくかに直結すると思うんですね。



例えば私の研究にしても、シリコンどまりになってしまいか、新しい素材を使って新しい性能を持つ半導体を開発できるかという差は、意外とそんなところから生じていくのではないかと思います。

**大学時代から取り組んできた研究。
原動力となったのは、
「電気は無くならない」という信念と、
大学時代の恩師の言葉**

座右の銘は特になのですが、大学時代からここまで一貫した研究に取り組んできましたので、強いて言うなら「愚直一徹」ですね。

現在でこそ、省エネとか、地球温暖化とか、エネルギー関連の問題から、比較的脚光を浴びるようになったパワー半導体デバイスですが、私が学生時代には、まったく注目されていませんでした。それでも30年近くこの分野で研究を続けて来られたのは、電気が社会のインフラを担う技術であり、未来永劫無くなることはないという信念と、学生時代に指導教官からいただいた「将来必ず重要な技術になるから続けなさい」という言葉があったからです。

学生のみならずには、ぜひ、高い志を持ち、自身の主義主張を貫いて欲しいと思います。イノベーションは、高い志や強固な主張を持った人が、絶対にやるんだという強い気持ちを持って、最後までやり遂げた時に起きるということも多いと思うので、ぜひ頑張ってくださいね。



1993年 3月
静岡大学大学院電子科学研究科
博士課程修了

【専門分野】
電力工学・電気機器工学
(半導体工学)

YANO Koji

迷ったときには立ち戻れるよう、
一般教養も専門科目もバランスよく学び、
基礎をしっかりと身に付けてほしいですね。



【担当教員】
医学部社会医学講座
山縣 然太郎 教授

21

社会環境医学

いったい上流で何が起きているのか—— 社会医学は上流を解決するための学問です。

社会医学は公衆衛生学(Public Health)、予防医学とも言われます。疾病にかからないための健康増進(一次予防)、早期発見早期治療(二次予防)、病気にかかった人の機能回復、社会復帰(三次予防)の視点から保健・医療・福祉を総合的に学びます。その科学基盤となる疫学、すなわち人を対象として病気の原因や治療効果を探る医学研究手法を学習します。

医師の仕事は日々の診療に追われ、たとえるならば、「川の下流でおぼれている人見つけて救う、次の日もまた次の日もおぼれている人を救う」といった仕事になっています。「いったい上流で何が起きているのか」。社会医学は上流を解決するための学問であり、それによって、予防や健康危機における個人の行動、社会環境や健康政策のあり方を考えます。

患者さんを社会環境を含めて
全人的に診る力
(Public Health Mind)を
養ってください。

山縣先生から
受講生へ



Learn
More

社会医学講座では、6年次生を対象に「被災地での災害時公衆衛生実習」も行っています。実際に被災地を訪れ、災害時における公衆衛生、医療の在り方、住民支援の実態などについて学びます。



宮城県南三陸町での実習(2016年4月)



Lesson
Point

この講義は、医学部医学科3年次生の必修講義です。各回、講義テーマのレ

学生が持っている薄い板が
アンケートシステムの回答ボタン

ジュメを配布し、スライドで解説を行います。アンケートシステムを導入しており、クイズで理解度をチェックしたり、受講生の意見を訊ねたりします。また、演習としてディベートを実施します。少人数のグループに分かれ、「安楽死」や「代理出産」などの医療を取り囲む社会問題について調査し、それぞれの是非や課題について討論します。



受講生の声

医学部医学科3年次
小村慶和さん

この講義は、「これが原因でこの病気になる」を覚えるのではなく、「この病気になったのはなぜだろう」を考える講義です。主体的に取り組むことができるので、とても大学らしい講義だと思います。また、現実に沿って学習でき、職業訓練のような一面もあります。アンケートシステムやディベートなど、一方的な座学ではないところも特徴です。

山縣先生は研究者であると同時に教育にも力を入れてます。現場の実情と自分たちをつなげてくれ、知識や技能だけでなく、マインドの部分も教えてくれます。先生というより「師匠」のような感じですよ(笑)

Close-up People

クローズアップビーぶる

教育人間科学部学校教育課程
生活社会教育コース(社会科教育系)4年

渡邊勇磨さん

Watanabe Yuma



頑張った分だけ返ってくるものは大きい!
小学校教諭を目指して仲間たちと頑張っています。

自己紹介をお願いします!

教育人間科学部4年の渡邊勇磨です。静岡県出身です。サッカーが好きで、ジュビロ磐田を応援しています!サークルはフットサルです。毎週金曜日に、初心者から経験者まで、サッカーが好きな人が集まって楽しく活動しています。



サークル仲間とスポーツ大会に参加。

教育人間科学部を選んだのはなぜですか?

もともと将来は教員になりたいと思っていたからです。高校生のとき、勉強をしていて社会科が一番面白いと感じたので、社会

科教育系へ進みました。

ここでは、西洋史・日本史・法律学・地理学・経済学・哲学などの様々な分野を、基礎から専門までしっかりと学ぶことができるのでやりがいがあります。私の専門は西洋史で、卒業論文には「啓蒙と政治」として、フリーメイソン*がどのように政治と関わっているか検証したいと考えています。

教育実習はいかがでしたか?

山梨大学の附属小学校と山梨県内の公立中学校に行かせていただきました。両方を通じて辛かったことは、寝る時間が短いことです。実習録を書き、指導案を修正し、教材を作っているとあっという間に時間が過ぎていきます。私はやるのが遅いので、いつも4時間ほどしか寝ることができませんでした。しかし、頑張った分だけ返ってくるものは大きいです。授業をしているときの子どもたちの笑顔は忘れられません。子どもたちは「先生のおかげで社会科の授業が楽しかった!」「先生、1年間一緒にいて!」と言ってくれました。その言葉を聞いて「頑張ってたぶんだけ返ってきたー!」と思いました。



生活社会教育コース4年生の交流会。これも大学ならではのイベントです!



生活社会教育コース4年次生のための自習室で教員採用試験の勉強中。

就職活動について教えてください!

私は小学校教諭を目指しています。入学当初は中学校教諭志望でしたが、教育実習を体験する中で、子どもと一日を通じて接する楽しさを知り、小学校教諭になりたいと思いました。現在、教員採用試験に向けて猛勉強中です。勉強は大変ですが、仲間たちと支え合いながら頑張っています。

これまでの大学生活で一番の思い出は?

3年次生の時の梨甲祭*です。生活社会教育コースの3年次生でギョウザのお店を出しました。どんなお店を出すか、役割分担はどうするかなど、私たちだけで決めることは大変でしたし、売り上げは目標としていた金額よりも少なくなってしまいました。しかし、準備段階からみんなで協力して、一つのことをやり遂げたことは、とても良い経験となりました。今年の梨甲祭でも自分たちでお店を出す予定です!



梨甲祭の1シーン。それぞれが異なる色のポロシャツを着てお店をアピールしました。

山梨大学を目指す受験生に一言お願いします。

山梨大学は、先生や先輩、後輩とのつながりが強いです。また、サークル活動や梨甲祭など、大学ならではのイベントもたくさんあります。受験勉強は大変だと思いますが、それを乗り越えれば楽しいことがいっぱい待っています。頑張った分だけ返ってくるものは大きい!私たちと一緒に楽しいキャンパスライフを送りましょう!

*平成28年4月、教育人間科学部を改組し、教育学部へ名称変更しましたが、それ以前入学の学生は旧学部名となります。

*フリーメイソン…全世界に「ロッジ」と呼ばれる支部をもち、総じて社会的地位の高い者たちで構成されているとされる秘密結社のこと。

*梨甲祭(なしこうさい)…毎年甲府キャンパスで行われる大学祭。平成28年度は11月4日(金)～11月6日(日)に行われる。

Men's Basketball Club



みなさん、こんにちは! 男子バスケットボール部です。

私たち男子バスケ部は、選手10人、マネージャー5人で活動しています。

選手が少なく、常に新入部員を募集しています。

**活動は月・水・木・土に
体育館で**

活動日は月曜、水曜、木曜、土曜の週4日で、活動場所は甲府キャンパスの体育館です。キャプテンを中心に、選手たち自身でチーム作りをしています。より良いチームになれるよう、日々練習に励んでいます!

**年間を通じて
各種大会に挑戦**

4月の選手権、6月のフレッシュマン、7月と1月のクラブチームとの大会、8月の関東ブロック予選、9月から10月のリーグ戦、12月の定期戦などに参加しています。その中でも目玉となるのが9月から10月にかけて行われるリーグ戦! 関東の大学バスケットチームは1部から5部までのリーグに分かれており、リーグ戦の結果によって昇格・降格が決定します。



バスケット経験はあるけど、部活をやる自信がないんだよね〜と
思っているあなた!
選手、マネージャー一同、
体育館でお待ちしています!



**バスケットだけじゃない、
青春の全てがここにある**

私たちは、全員が強豪校出身というわけではありません。しかし、普段から地道な練習を積み重ねることで、試合で通用する技術を身につけています。また、部活の時間以外でも食事をしたり、一緒にゲームをしたりと、部員同士は本当に仲良しです! 最初は技術に自信がなくても、楽しみながら技術を向上させることができると思いますよ。仲間と一緒に汗を流して充実したキャンパスライフを送りませんか? 選手、マネージャー一同、体育館でお待ちしています!

文: マネージャー 石坂友萌 (生命環境学部生命工学科2年)



練習中は常に全力! チームメイトでも本気でぶつかります!



私たちがメンバーです。ちなみに黒のTシャツはバスケ部オリジナル。



**CHECK
IT
OUT!**



私たちは今まで最下部の5部でしたが、昨年のリーグ戦で見事に昇格枠を勝ち取り、4部昇格を果たしました! 4部での試合は今までよりも厳しいものになると思いますが、チーム一丸となつて一つひとつの試合に臨みたいです。

昨年昇格を決めてくださった先輩方の努力を無駄にしないよう、今年は4部残留を目標に頑張ります!

Yamanashi Life Support

YLS、通称救急サークルは
2015年に設立された比較的新しいサークルです。
ここでは皆さんにYLSが行っている3種類の活動についてお知らせします!



救急医療を学びたい!
そんな想いをかたちにした
サークルです。
わたしたちと一緒に
勉強&資格取得しませんか?



毎月19日に勉強会を開催中

1つ目は、毎月19日に医学科講義棟のチュートリアル室で行っている、救急医療を中心とした勉強会です。勉強会といっても堅苦しいものではなく、部員で話し合っただけのテーマ、例えば「心筋梗塞」に沿って各自で調べ、それをスライドにまとめ、皆の前で発表するというものです。活動の最後には、テーマ内の疾患をもつ患者さんを想定して、自作した「症例シナリオ」をもとに、実際に問診や身体所見をとりながらその患者さんの疾患を推理するという、NHKで放送されている『総合診療医ドクターG』のようなことを行ってその日の復習としています。



「症例シナリオ」から患者の疾患を推理中



目指せ! 救急医療の資格取得

2つ目は、救急医療のさまざまな資格を取得することです。医学生でも取得できる資格はBLSやICLS、ACLSなどの心肺蘇生法に関するものやJPTECなどの外傷救急に関するものなど意外と多くあります。そうした資格取得のための講習会に参加したり、講習会の運営をお手伝いしたりしています。また、年に1度、医学部にあるシミュレーション室で人形やAEDトレーナーを用いた心肺蘇生法の勉強会を企画して知識と経験を積んでいます。シミュレーション室は学生なら誰でも利用できますが、資格を持つ先輩に丁寧に教えてもらえるのはYLSならではのポイントです!



夏季合宿などイベントも充実

3つ目は、夏季合宿です。昨年は山中湖に1泊し、部員同士の親睦を深めつつ、呼吸器疾患や肺炎(すいえん)についての勉強会を行いました。今年も場所は未定ですが同時期に行う予定です。その他にも、昨年度は山梨県消防学校で行われた「防災カフェ」に参加して県内の大学生と災害時にできることを話し合ったり、全国各地の大学で学生が運営する勉強会に参加したりと活動の幅を広げています。

文：部長 岩田千優 (医学部医学科4年)



包帯による応急手当の練習



部員一同、救急医療について学びたいあなたの参加を待っています!

CHECK IT OUT!



昨年の医学祭ではAED講習会を開催

YLSは「学びたい!」という意欲が活動に直結しており、好奇心の分だけたくさん学びを得ることができる場所です。また、勉強会ではプレゼンの技術も身につくかも!?

10月29日(土)~30日(日)の医学祭では、救急医療を楽しく学べるブースを開きます。ぜひ遊びに来てください!

第1回 山梨大学大村智記念基金奨学金授与式

4月26日(火)、「第1回 山梨大学大村智記念基金奨学金授与式」を開催しました。「大村智記念基金奨学金」は、本学では初めての学部学生に対する「給付型」奨学金として、今年度新設した大学独自の制度です。ノーベル医学・生理学賞を受賞された本学卒業生・大村智特別名誉博士の「若者の学業を奨励したい」との強いご意向を踏まえ、大村博士をはじめ、多くの皆様のご寄附による「山梨大学大村智記念基金」を活用して創設されました。

今年度は、入学試験の成績を総合的に判断の上選考を行い、4学部の新入生15名に授与されました。



島田眞路学長から奨学生に目録と記念色紙が贈られました。

熊本地震に対する本学の取組み

4月14日から発生している熊本地震により、熊本大学では被災した学生・留学生への支援のほか、建物や施設設備等の教育研究環境にも多大な被害を受けています。本学では熊本大学の早期復旧支援を行っています。

- ◎九州大学(支援物資取りまとめ窓口)へ支援物資を緊急搬送(4月20日)
- ◎熊本県南阿蘇村へ医療看護班を派遣(3班、4月29日～5月9日)
- ◎熊本大学へ義援金を寄附(教職員574名、2,283,000円)



附属病院の備蓄品から飲料水 約1,400本、食料品 約8,450食を発送しました。

2016

「連続市民講座」受講者募集中!

山梨大学は今年度も読売新聞甲府支局と共催し、「創る～山梨のチカラを活かして～」と題した全10回の連続市民講座を開催します。

今年度は、山梨発の“チカラ”を活かして創り出された新しい技術や、医療の進歩による未来、心を豊かにする文化について取り上げます。ぜひご参加ください。

【日時・場所】

開催日：スケジュール一覧表参照

会場：山梨大学甲府東キャンパス A2-21 教室

定員：330人

時間：午後1:30～3:00まで(午後1:00開場)

受講料：無料

【お問い合わせ先】

〒400-8510 甲府市武田4-4-37

山梨大学教務課連続市民講座担当

電話:055-220-8043 FAX:055-220-8796

E-mail:koukai-kouza@yamanashi.ac.jp



【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講師
第4回	7月16日(土)	工学を用いた農業の効率化 ～地域の農業に活かすロボットシステム開発～	石田和義 准教授 (工学部)
第5回	9月17日(土)	生活の中に存在する「アートの種」 ～私たちの心と暮らしを豊かにする現代美術～	井坂健一郎 教授 (教育学部)
第6回	10月15日(土)	「形成外科」による再建とは? ～失われたものを再建する医療～	百沢 明 特任准教授 (医学部)
第7回	11月12日(土)	半導体結晶を創る ～情報化社会を支える現代の宝石～	有元圭介 准教授 (工学部)
第8回	12月17日(土)	情報化社会における手書き文字が果たす役割 ～手で文字を書くことの美しさ、楽しさ～	宮沢正明 教授 (教育学部)
第9回	平成29年 2月18日(土)	がんに関(か)つたら ～なぜ今、山梨の放射線治療が注目されているのか?～	大西 洋 教授 (医学部)
第10回	平成29年 3月18日(土)	植物の香り ～植物が生き残るための重要な武器～	鈴木俊二 准教授 (生命環境学部)

*詳細はホームページをご覧ください。http://www.yamanashi.ac.jp/social/378

今月の表紙 生命環境学部 山下先生と学生たち



本学で活躍中の女性教員・女子学生を主役にした。協力してくれたのは、生命環境学部地域食物科学科の山下さやか助教と学生たちです。山下先生は食品栄養学研究を専門とし、生活習慣病などの食生活と密接に関連している疾患のメカニズム解明と予防を目指し、糖質、脂質などの「栄養素」や酸化成分などの「食事因子」の役割を探求しています。

編集後記 『山梨大学広報Vine29号』をお届けします。

平成28年4月、「女性活躍推進法」が成立しました。本学では積極的な女性役員・女性幹部の登用、男女共同参画推進室の活動を軸に、女性が希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備しています。今回、その一端をご紹介させていただきました。

また、今号ではVine史上初めて大学職員にスポットを当てました。大学職員の中で、学生と直接関わることのできる業務はごく一部です。しかしながら、それぞれの部署が本学の教育研究を支え、学生生活を陰ながら応援しています。少しでも身近に感じていただけたら幸いです。

8月にはオープンキャンパス、秋には大学祭があります。皆さん、本学にぜひお越しください。

(広報企画室)

山梨大学広報 ヴァイン

2016
vol.29
July

発行者:山梨大学総務部総務課広報企画室

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務課広報企画室

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8799

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

http://www.yamanashi.ac.jp/

